

令和7年度 学校経営報告 東京都立日比谷高等学校 校長 萩原 聡

自己評価の基準：【A】十分達成できた【B】おおむね達成できた
【C】あまり達成できなかった【D】まったく達成できなかった

1 教育活動への取組及び重点目標への取組	自己評価
<p>☆印を付した太字部分が今年度の重点目標</p> <p>学習指導</p> <p>【目標】「質の高い授業の創造」と「教科マネジメント」の充実を図る。</p> <p>【方策】</p> <p>① 生徒間の対話を通して、考え・表現させる授業を、すべての科目において実践する。その際、一人1台端末等ICT機器の効果的活用も図る。</p> <p>② 集団で学び、新たな気づきや発見のある授業を通して、自ら学びに向かい深く掘り下げることのできる生徒を育てる。</p> <p>③ 当該学年の教科チームとして、同一科目において、授業内容・授業進度をそろえ、定期考査問題の完全共通化を継続する。生徒の成績推移や実態を把握し、「課題・補習・面談」を通して、基本的な学力の維持・向上を図る。また、実態を踏まえた日常の補習や長期休業期間中の講習を実施する。</p> <p>④ 教務部の進行管理のもとに、年2回の「生徒による授業評価」結果を教科として分析し、学校として生徒へ文書でフィードバックし、生徒と教員とでよりよい授業づくりを目指す。また、教員間で年間を通して相互に授業を参観し合い、良さを共有する。</p> <p>⑤ 11月に探究活動に関する校内研修会を実施する。全教員共通理解のもとで「理数探究基礎」に取り組むことで、内容の改善・充実させ、より効果的に実施する。また、2年「理数探究」、3年「理数探究発展」を充実した内容で実施する。</p> <p>☆⑥ 全学年で、3観点に基づくルーブリック評価について実施する。</p> <p>⑦ 教務部と3学年・教科主任会・進路指導部が連携して、3学年特別時間割の講座設定について共通理解を図り、組織的・意図的に実施する。</p> <p>【数値目標】（ ）内は前年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に対する生徒肯定割合85%以上（83%） ・R8「理数探究」履修希望者数40名（28名） ・R8「理数探究発展」履修希望者数10名（8名） 	<p>学習指導</p> <p>質の高い授業を創造するために、</p> <p>ア 教員個々及び教科としての組織的な教材研究・相互授業観察による授業改善（通年）を行った。</p> <p>イ 管理職による授業観察及び振り返り（年2回）と面談（年3回）をそれぞれ実施した。また、全科目において定期考査問題の共通化を継続した。教科マネジメントを推進するために、教科会の定期開催、教科主任会の開催（年4回）、教育課程改善検討委員会の開催（年10回）を通じて、適切な進行管理を行うことができた。【A】</p> <p>① 授業における「生徒間の対話」の場面を通して思考力・判断力・表現力を高める取組はほぼすべての授業で実施した。授業に対する生徒の肯定割合は87.6%で前年度から4.6ポイント増加した。</p> <p>② 授業を契機とし、自主的な学びに取り組む生徒が増えている。学びを継続させ、教科横断型の授業展開をさらに推し進める。</p> <p>③ 教科として教材の共有化や担当教員間の情報交換を進め、生徒個別の成績状況等はデータベースや拡大進路部会において教員全体で共有した。また、年2回の進学指導検討会及びケース会議において学年全体の生徒情報を共有し、それに基づく補習・講習等を各教科で工夫し実施した。</p> <p>④ 教科として授業評価結果の分析コメントを作成し、評価結果とともに生徒・保護者へ配布した。</p> <p>⑤ 全教員で「理数探究基礎」（1年必修）に取り組み、探究力の基礎を構築させるよう働きかけを行った。「理数探究」（2年選択）、「理数探究発展」（3年選択）については、1年次の探究活動をより深化させ、2月の成果報告会につなげた。また、「理数探究基礎」の評価等に関する校内研修会を2回実施した。2、3年生の履修者の中から、外部のコンテスト等で上位入賞する生徒が多く輩出された。</p> <p>⑥ 各教科で適正に評価を実施した。指導のみならず、評価に対する目線合わせを教科内で行い、評価材料等を教科内で統一し、指導と評価の一体化を実現させた。教科主任会を開催し、評価の改善のための検討を行い、各教科で実践した。</p>

生活指導・健康づくり

【目標】全教職員が「生徒に寄り添い、生徒と向き合う指導」により、自律した生徒を育成する。

【方策】

- ① けじめ・メリハリのある授業規律・生活規律を確立するため、リーダーとしてふさわしい身だしなみ、時間・私物・貴重品管理・SNSの適切な利用を重点に、全教職員で生活指導にあたる。
- ② 全校集会・学年集会やホームルームを通して、望ましい学校生活について生徒に考えさせる指導をするとともに、家庭及びPTAとの連携を図る。
- ③ 年間を通して、生活指導部、学年、経営企画室が連携し、タイムリーかつ確実な環境整備を行う。
- ④ スクールカウンセラーを活用し、生徒の心のケアなど教育相談機能の充実を図る。
- ⑤☆ 必要に応じて学校いじめ対策委員会やケース会議を開催し、心のケア等について迅速に情報共有するとともに、的確に対応する。

進路指導

【目標】卒業時に生徒が希望する進路実現を果たす。

【方策】

- ☆① 進路指導部と学年とが連携し、学年集会、個人面談等を活用し、生徒の高い志を堅持させ、第一志

- ⑦ 3年特別時間割において教科間で密な連携を図り、生徒本位の講座設定を行うことができ、延べ79講座が開設された。

【数値目標】

- ・学習に対する生徒肯定割合 87.6% (達成)
- ・R8「理数探究」履修希望者数 28名
- ・R8「理数探究発展」履修希望者数 10名 (達成)

生活指導・健康づくり

あいさつ、身だしなみ、時間・私物管理、集団生活におけるマナーなど、個々の教員からの声かけや問いかけを実施した。また、学年・全校集会を活用して自律的な生活習慣の確立へ向けた働きかけを行った。【A】

- ① チャイムと同時の授業開始は問題なく実施できている。生活指導部による登校指導や部活動顧問等による下校指導での見守りを実施し、時間管理の意識を促している。私物の管理及び教室の整理整頓を徹底させ、より望ましい学習環境を全校で確立していく。また、セーフティ教室や始業式・全校集会等でSNSの適切な利用や生徒個々の生活安全に対する意識を高めることができた。
- ② 生徒へ行った指導を補う形で、保護者向けにもClassi等を通じて発信することにより指導の徹底を図ることができた。
- ③ 施設・設備・備品の破損・修繕箇所等、即時報告し対応するよう努めたが、改善が図れなかった部分もある。施設等の老朽化により、生徒の重大事故につながりかねない事例も発生し、組織的な点検体制の構築が急務である。
- ④ スクールカウンセラーの2名体制により、教育相談機能はより充実できた。相談件数は年間で延べ324件に上り、逐次担任や学年と連携し、課題解決に努めた。全員面接の実施により、生徒の心のケアを迅速かつ丁寧に行えた。
- ⑤ 企画調整会議や職員会議での生徒情報の共有だけでなく、緊急対応が必要な事案については管理職を含めて即時的に情報を共有し、円滑に外部機関につなげることができている。

進路指導

現役進学率は69.0% (前年度78.0%)。難関国公立大学の現役合格者数は昨年度を下回った。個々の生徒の高い進路希望を実現させていくために、今年度の受験結果の検証を進めて、次年度以降の指導へ生

望を貫き、現役合格を達成させるように粘り強い指導を行う。

ア データベース等により生徒情報を共有し、担任・教科担任・部活動顧問等があらゆる場面で励ます指導を行う。

イ 年2回の進学指導検討会後に、教科会を開催し、具体的な学習指導対策を、進路指導部とともに検討し実施する。

ウ 実力テストの実施にあたって、作問レベルや実施後の状況について全教職員で共有する。

エ 3年生の成績データに基づいたケース会議を年2回開催し、個別指導や出願指導等で活用する。

② 医学部医学科への進路希望実現に向けた対応を継続する。

③ 海外大学進学希望者への説明会等を充実させ、実施する。

【数値目標】（ ）内は前年度

・難関4国立大学及び国公立医学部医学科の現役合格者 115人以上 (122人)

・難関3私立大学の現役合格者 3330人以上 (332人)

・国公立大学の現役合格者 160人以上 (167人)

・大学入学共通テスト6教科の総合得点率80%以上の人数 211人以上 (211人)

・大学現役進学率 70%以上 (78.0%)

特別活動

【目標】「文武両道」を奨励し、生徒の帰属意識を高める。

【方策】

☆① 体育大会・合唱祭・星陵祭を通して、全校生徒の成就感や達成感を高める。

② 生徒会活動・委員会活動を支援し、生徒自身の自主的・自律的な活動を充実させる。

③ 部活動指導員らとの連携を図り、部活動を活性化し、加入を奨励する。

④ 校外伝統行事を卒業生の支援を受けながら、実施していく。

かしていく。年間を通じて、進路指導部と学年とが連携し、日常の声かけに始まり、生徒面談・三者面談、学年集会、進路講演会、出願検討会などを活用しながら、情報を共有して、指導に当たった。【B】

① 学年のみならず、学校全体であらゆる場面を通して、第一志望をあきらめさせない指導を貫いた。

ア データベース化された既卒生及び在校生の情報や進学指導検討会等で共有された情報をもとに、全教員がそれぞれの立場で励ましの指導を行った。

イ 各教科で検討した対策を職員会議で全体に周知し、学年担任及び教科担当者が年間を通じて組織的に対応した。

ウ 実力テストの作問レベル、予想平均点や実際の得点率を問題別に細かく検証し、教科会にて全員で共有して授業にフィードバックさせた。

エ 11月及び1月に3年生のケース会議を実施し、生徒の成績データベースを基に、教員間で指導上の目線合わせを行った。

② 医学部医学科志望者に対する面談指導や外部人材を活用したガイダンス等を組織的に展開し、合格者数は現浪合わせて28名と過去10年間で2番目の高い数値となった。

③ 都で実施した海外大学進学説明会の内容を進路指導部内で情報共有した。

【数値目標】

・難関4国立大学及び国公立医学部医学科の現役合格者 90名

・難関3私立大学の現役合格者 364名

・国公立大学の現役合格者 134人

・大学入学共通テスト6教科の総合得点率80%以上の人数 177人

・大学現役進学率 76.4%

特別活動

文武両道の伝統は確実に継承され、生徒の入学満足度は92%と、前年度より微増した。【A】

① 実行委員会の生徒を中心に、すべての行事について完全実施できた。体育大会、合唱祭は全生徒の65%超が優れた学校行事として評価し、星陵祭は82.8%の生徒が評価した。

② 他県の高校の生徒会との交流を実施するなど、充実した活動となった。

③ 複数の部に加入している生徒もおり、部活動加入率は100%を超えた。

☆⑤ 全生徒がSSHやGE-NET20などグローバル部の事業に関わり、その成果の還元を受けられる取り組みを推進する。

【数値目標】（ ）内は前年度

- ・学校行事に対する生徒肯定割合 90%以上(87%)

募集・広報活動

【目標】「本校の教育を理解した第一志望とする生徒」の入学を進める。

【方策】

- ① 学校説明会・学校見学会、授業公開等、本校の教育活動を公開する機会を充実させる。特に、生徒会外務委員会との協力体制を継続し、生徒の視点からのPR活動を行う。
 - ② 小学生とその保護者を対象とした学校説明会をより一層充実させる。
 - ③ 海外及び都外在住者向けの相談窓口を継続実施する。
- ☆④ 生徒の活躍（行事、部活動など）や各分掌が所管する内容をタイムリーに学校ウェブサイトへ掲載する。

学校経営・組織体制

【目標】PDCAマネジメントサイクルの実働化による組織的な学校運営体制をより一層推進する。

【方策】

- ① 企画調整会議と分掌部会との双方向性を維持する。

④ 運営の見直しを大幅に図り、卒業生がより中心的に行事の運営を行い、教員の負担を減らすとともに、生徒の満足度も向上した。

⑤ SSHは次年度の新先導期申請に向け、グローバル事業部を中心に検討・協議に多くの時間を費やした。校外での活動や国内研修はこれまで以上にさらに充実した。GE-NET20のボストン・ニューヨーク研修は一定の成果を上げており、次年度は西海岸での研修を実施する。また、韓国姉妹校交流は日韓それぞれを舞台とし、相互の交流が実現できた。課題は徐々に整理されつつある。グローバルリーダー育成研修では産官学連携を推進し、非常に質の高い実践を行い、生徒の資質を向上させた。広く生徒や保護者、外部関係者に向けたそれぞれの事業の成果発表を行い、高い評価を得た。

【数値目標】

- ・学校行事に対する生徒肯定割合 92%

募集・広報活動

推薦に基づく選抜の応募倍率は2.89倍（前年度3.2倍）と前年度を下回ったが、学力検査に基づく選抜の応募倍率は2.06倍と2年連続で2倍を超えた。

【B】

- ① 夏の学校見学会を5日間実施、海外在住生徒対象のオンライン懇談会実施、学校説明会を3日間実施し、総参加者数は5,500人を超えた。生徒を前面に出した広報活動の運営を本格化し、参加者の評価も非常に高かった。
- ② 8月に小学生対象見学会・体験授業を実施。小学生と保護者をあわせて101組の参加があった。
- ③ 専属の非常勤教員を配置し、一時帰国時の個別見学の実施等、きめ細やかな対応を行った。
- ④ 生徒は多種多様な活躍をしたが、各分掌からのウェブサイトの自主的な更新・情報発信には課題が残った。ICT委員会を中心に体制を構築し、情報発信の頻度を上げることを含め、組織的な情報発信を行っていくことが課題である。

学校経営・組織体制

企画調整会議を軸として、「組織的な学校運営体制」の再構築に取り組めた。また、教育課程改善検討委員会を設置、年間10回の会議を開催し、校内の様々な課題について共有し、改善を図るための方策を模索した。【A】

<p>ア 企画調整会議と分掌部会との双方向性を継続することによって、全教職員の情報共有や経営参画を進める。</p> <p>☆イ 学校経営上の課題について横断的に検討し、必要に応じて分掌等に働きかけ、教育活動の改善や新規事業の提案等を行う。</p> <p>② 教科主任会及び教科会の充実とともに教科間の連携を図る。</p> <p>☆ア 教科ごとの学力分析・課題の把握・優れた実践の共有を進め、学習指導へと反映させる。</p> <p>イ 教科として組織的な補習・講習の企画・立案・実施を進める。</p> <p>ウ 教科間の連携を一層強化し、バランスのとれた指導体制を整える。</p> <p>③ 各分掌が学校経営計画に基づき組織目標設定、中間総括、年度末総括を実施し、学校運営連絡協議会に報告する。</p> <p>☆④ 服務事故ゼロを達成し、生徒・保護者の信頼を確立させる。特に体罰や不適切な指導を絶対に生じさせない。</p> <p>⑤ 経営企画室による教育活動の支援を進める。</p> <p>ア 来校者等への丁寧な接遇を行う。</p> <p>イ 計画的・効率的に予算執行する。</p> <p>ウ 施設設備の定期的な安全点検・安全管理及び迅速な修繕を徹底する。</p> <p>エ 行政職員から見た教育活動等への提言を行う。</p> <p>⑥ 創立150周年事業に向けて、委員会を設置し、PTA・同窓会等と連携し、準備を進める。</p> <p>☆⑦ 常に業務の見直しを心掛け、業務縮減に努める。</p>	<p>① 企画調整会議の内容伝達は、概ね円滑であった。</p> <p>ア 全教職員全体への周知徹底という点では課題が残った。</p> <p>イ 教育課程改善検討委員会を設置・開催、学校経営上の課題について横断的に検討し、教職員に進捗状況を周知することにより、教職員が課題を意識し、組織の一員として課題解決に向けて当事者意識を持つようになった。次年度に向けて、一部具体的な改善が実現した。</p> <p>② 教科主任会及び教科会を充実させることができた。</p> <p>ア 教科ごとの分析等は共有できている。また、優れた実践の共有も徐々に図られており、教員の授業改善に向けた意識も向上している。</p> <p>イ 教科としての組織的な補習等は実践できている。</p> <p>ウ 課題の提出時期や課題量については、徐々に連携が強化され、生徒が自律的に学力を向上させる体制が構築されつつある。</p> <p>③ 予定通りに実施した。</p> <p>☆④ 日常的な声かけや企画調整会議・職員会議での注意喚起、服務事故防止研修等を通じ、服務に対する意識を高め、特に生徒に対する指導については一人で抱え込まず、教員が密に連携しながら生徒に寄り添う指導を行う体制を築いた。</p> <p>⑤ 経営企画室について、積極的に教育活動を支援した。</p> <p>ア 実施することができた。</p> <p>イ 実施することができた。</p> <p>ウ 教員と連携し、日常の点検や施設管理について、迅速に対応できた。</p> <p>エ 行政職員と教職員との連携が密になり、情報の共有ができている。</p> <p>⑥ 如蘭会（同窓会）と連携し設置要綱を定め、周年事業運営協議会を設置した。校内委員会とも情報共有を行い、年間で4回の運営協議会を開催し、順調に準備が進められている。</p> <p>⑦ 業務量の増大からくる勤務時間の長さには課題がある。教育課程改善検討委員会では、業務縮減の観点も取り入れ、教育活動の見直し等も検討しているが、今後も継続的に努力する必要がある。</p>
---	---

2 次年度以降の課題	対応策
<p>【教科マネジメントの確立】</p> <p>① 「集団での学び」と「個での学び」の継続実施。「生徒間の対話のある授業実践割合」と「大学入試問題への対応力」を高める。</p> <p>② 長期休業日中の講習、3学年特別時間割の更なる充実を図る。</p> <p>③ 個々の生徒の学習状況をこまめに把握する。</p> <p>【生徒の高い進路希望の実現】</p> <p>① 模擬試験における5教科の成績向上を図る。</p> <p>② 医学部医学科志望者の増加を踏まえ、計画的な学力向上・面接対応力向上を組織的に継続する。</p> <p>③ 面談のさらなる充実を図る。</p> <p>④ 学校・生徒・保護者が一体となった進路指導を推進する。</p> <p>【進路指導とキャリア教育の一体化の実現】</p> <p>① 生徒が高校・大学卒業後の先を見据えた進路選択をより主体的にできるよう進路指導體制を充実させる。</p> <p>② 進路指導において、進学指導と職業・キャリア教育を両輪とし、職業・キャリア教育のさらなる充実を図る。</p> <p>【魅力ある学校づくりに向けた取組の充実】</p> <p>① 生徒・保護者が入学してよかった、入学させてよかったと思える学校にするための取組を行う。</p>	<p>① 「生徒間の対話による学び」をすべての授業で実施し、自らの学びをより深めるよう促す授業を展開する。授業・土曜講習・夏期講習において大学入試を意識させ、必要な論述対応力を高める。</p> <p>② 講座の設定・内容を進路指導部・教務部・学年とで組織的に行い、3学年全体の大学入試へ向けた機運の醸成と実効性を高める。</p> <p>③ 教育用ダッシュボードを活用し、個々の生徒の学習状況等を総合的にとらえ、個別最適な指導へとつなげる。</p> <p>① 前年度の取組状況や模擬試験結果を踏まえ、2学年後期以降の具体的な働きかけを継続させる。模擬試験における5教科の成績向上については、5教科で数値目標と対応策を示し、全教員に周知する。</p> <p>② 「医学科志望者ガイダンス」や「面接指導」を一層充実させる。</p> <p>③ 進路指導部主導で、各学年の年4回の生徒面談及び三者面談の年間実施計画を策定し、各面談の目的を明確にし、生徒の進路選択につなげる。</p> <p>④ 保護者会において、進路指導部主導で、継続的な進学情報の提供を行う。</p> <p>① 教務部と進路指導部が連携し、「人間と社会」「総合的な探究の時間」の抜本的な見直しを行う。特に星陵セミナー（キャリアセミナー）、卒業生講演会の目的、位置付け、実施学年・時期を見直し、生徒の進路選択に資する機会とする。</p> <p>② これまで実施していた星陵セミナーや卒業生講演会に加え、外部人材等を活用した進路行事を含めた体系的なキャリア教育計画を策定する。また、難関大学進学に向けた指導に合わせて、キャリア教育の視点も取り入れた面談を実施する。</p> <p>① 学校評価アンケートをもとに学校の課題を明確にし、生徒・保護者・教職員にとって魅力的な学校となるよう、教育活動や学校運営体制の具体的な改善を図る。</p>

【広報・募集活動の活性化と入試倍率の向上】

- ① 少子化や男女枠撤廃、私立の授業料無償化の影響に伴う募集対策が今後の継続的な課題となっているため、広報・募集活動において、学校の特色をより明確に打ち出し、本校を第一志望とする生徒の獲得を目指す。海外・他県・国立・私立からの応募者を増やし、応募倍率の上昇を図る。

【SSH新先導期申請への対応】

- ① SSHに関わる設置科目を中心に教育課程の見直しを行う。
- ② 教職員の意思統一を図り、全校体制を構築する。

【ワークライフバランスの実現】

- ① 年間行事計画の見直しや学校行事の精選を行い、持続可能な教育活動を実践する。

- ① 学校説明会等の内容をより充実させ、ホームページの更新頻度の向上と内容の充実をより推進する。外部の説明会やイベントへ積極的に参加し、アピールする機会を増やす。教育活動のさらなる充実を図り、それらをホームページ等で外部に発信していく。海外帰国子女に対する相談を継続し応募者増につなげる。また、生徒会との協力運営により、本校の魅力の情報発信に努める。

- ① 教育課程委員会、SSH運営委員会が相互に強固な連携を図り、教科「理数」、「総合的な探究の時間」、「人間と社会」を含めた教育課程の見直し作業を行う。
- ② 教育課程の見直しを含めた申請に向けての進捗状況を教職員に逐次周知・報告する。「理数探究基礎」の充実を図り、教員の有用感を向上させる。

- ① 生徒の負担感や教職員のワークライフバランスとのバランスをとり、三人行事、校外行事、部活動等の実施方法の見直しを実施する。